

報告事項

1. 2024年度事業活動報告（2024年4月1日～2025年3月31日）

2024年度の協会の活動方針は、2023年度と同じく以下を掲げ、活動を実施した。

遺贈寄付を取り囲む社会環境の整備に努める

1. 会員向け提供価値の再検討とその可視化と実施に努める
2. 遺贈寄付ストーリーの収集と発表を積極的に行っていく
3. 土業、メディア、遺贈寄付仲介組織とのリレーションシップの形成を行う
4. 遺贈寄付ウィークは、受遺団体と遺贈寄付仲介団体、メディアとの協働活動を中心とし、寄付者には彼らからのアピールという作りとする
5. 「遺贈寄付の倫理に関するガイドライン」の普及、援用の働きかけ

上記方針に基づき、当協会で行ってきた主な活動ハイライトは次のとおりである。

活動ハイライト

- ・ レガシーパートナーの中でも、遺贈寄付の推進・支援を実施している企業・団体向けに「遺贈寄付推進パートナー」の区分を設け、募集と協会HP上での紹介を開始。
- ・ 終活事業者・土業向けの展示会であるエンディング産業展にレガシーパートナーとともに初出展。遺贈寄付の啓発と終活事業者への接点の構築を行った。
- ・ 5回目となる遺贈寄付啓発キャンペーン「遺贈寄付ウィーク2024」では、初めて協賛を募らない形で実施。市場での遺贈寄付のプレゼンスは維持できた考える。

活動の詳細は以下のとおりである。

■活動報告

- 「遺贈寄付推進パートナー」の区分の新設
遺贈寄付の推進においては、遺贈寄付を受け取る受遺団体だけでなく、遺贈寄付に関連したサービスの提供、支援を実施している企業・団体(土業関連を含む)の役割は大きい。そのような企業・団体にも協会の主旨に賛同いただき、日本社会での遺贈寄付の推進をご一緒いただくためにも、「遺贈寄付推進パートナー」の区分を設けて募集、協会HPでの紹介を2024年9月から開始した。

<HPでの紹介 : <https://izoukifu.jp/consideration/partner/>>

遺贈寄付推進パートナー

遺贈寄付推進パートナーでは、様々な遺贈寄付や終活相談を行っていらっしゃいますので、各組織ホームページ等で確認ください。



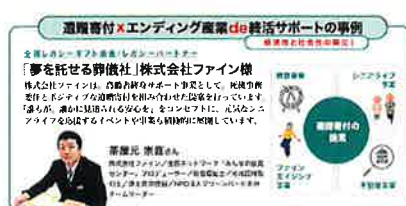
- 終活産業専門展「エンディング産業展」にレガシーパートナーと共に参加
葬儀・埋葬・供養・相続などの終活産業に関する最大の専門展となる「エンディング産業展」の第10回に、協会としては初出展、レガシーパートナー5団体とともに、ブース出展、セミナー出展を行った。
- ・ 会期：2024年8月28日(水), 29日(木) 10:00-17:00
 - ・ 会場：東京ビッグサイト

- ・ 来場数：2日間合計 13,318名（主催社発表）
 - ・ セミナー出展：「思いを未来に託す遺贈寄付～新しい終活の可能性」（参加者53名）
 - ・ ブース出展：ミニブースへの来場者(名刺交換数) 182名
- 協会が終活事業者との接点をもつ機会となり、専用のチラシも作成し、配布した。また、当日は、会場から毎月実施している「遺贈寄付ライブ」の配信も行った。

<専用チラシの制作>

<セミナーでは受遺団体からのお話しも>

<会場からライブ配信>



➤ 5回目となる遺贈寄付の啓発キャンペーン、「遺贈寄付ウィーク2024」を実施



2020年度から開始した、遺贈寄付の啓発キャンペーン「遺贈寄付ウィーク」を2024年度も開催した。今回は初めて協賛を募らず、加盟団体、アドバンストレガシーパートナー、レガシーパートナーの皆さんと連携して実施をした。

- ・ 実施期間：2024年9月13日(金)～19日(木)
- ・ 主催：一般社団法人 全国レガシーギフト協会
- ・ 後援：法務省、外務省、文部科学省

遺贈寄付ウィーク2024ハイライト

1. 昨年に引き続き、遺贈寄付の受入をこれから検討する団体向けの「遺贈寄付のはじめの一步」を開催。そのフォローアップ・ミーティングも実施。
2. 遺贈寄付ウィーク特別編となる遺贈寄付サロンでは、団体事例と共に、オーストラリアの海外事情も紹介。
3. 初となる終活事業者の遺贈寄付事例共有のイベントも開催。
4. 加盟団体、レガシーパートナーに対して、「遺贈寄付実態調査」を実施。今後、継続していくことにより、経年変化を観測して、発信していく予定。
5. 一緒に推進するパートナー団体と使用できる遺贈寄付ウィークのロゴを制作。

～遺贈寄付についてともに考える～ 遺贈寄付ウィーク 2024 9月13日(金)～9月19日(木) 対象 活動団体・終活/金融関連事業者 士業・メディアの方々		遺贈寄付サロン ハイブリッド 9/13 15時 ウィーク特別編 詳細、その他のイベント情報は こちらから ▶▶▶	
受遺団体向け 遺贈寄付ははじめの一步 オンラインセミナー 9/18 15時		遺贈寄付×終身サポート事業 オンラインの事例共有会 9/19 15時	

- ・ 振り返りと課題
 - ・ エンディング産業展から遺贈寄付ウィークのイベント（遺贈寄付サロン、終身ビジネス事業者事例共有会等）への参加誘導

協賛を募らないかたちでのウィークでしたが、遺贈寄付ウィークを宣言しオンラインイベントを3コマ実施することで一定の求心力は維持し、キャンペーンとしてのムーブメントの盛り上がりは維持できた。

➤ 遺贈寄付ライブ：月に1回開催し、遺贈寄付の理解促進へ

毎月第4水曜日のお昼の時間帯(12:15-12:45)の「遺贈寄付ライブ」を継続して実施した。2024年度は引き続き「終活シリーズ」と題し7月から実施、広く終活周りのトピックスから遺贈寄付を考える内容として展開し、様々な方々に登場をいただくトークセッションライブ (Facebook と YouTube)を実施した。ライブはアーカイブされるので、その後のコンテンツとしても再利用可能としている。

協会HPにて、年間の予定の提示、ならびに過去のライブへのアーカイブへのアクセスを追加し、期待感の醸成と共に、アーカイブ動画を知的コンテンツの活用に転用をはかった。

2024年4月から2024年12月までの9回の累計再生回数は882回であった。

開催日時	テーマ	出演者
4月24日	「瞬笑力」で最後まで元気に生きる	ローズ（笠間節子）さん（一般社団法人 瞬笑コミュニケーション協会）
5月29日	賃貸不動産の遺贈寄付	星龍一朗さん（リアル・スター・コラボレーション株式会社 代表取締役、ニコニコFP新宿事務所 代表、一般社団法人不動産経営イノベーション協会 代表理事）
6月26日	和尚のぶっちゃけ終活・相続話	吉武 学 さん（吉武学行政書士事務所 代表 法泉寺（真宗大谷派）・住職 行政書士・FP・行政相談委員・相続診断士）
7月31日	福岡市社会福祉協議会の終活サポート紹介	栗田将行 さん（福岡市社会福祉協議会）
8月28日	『エンディング産業展』の現場から	ファシリテーター 渋谷 雅人（一般社団法人全国レガシーギフト協会）
9月25日	地域包括支援センター	小野寺 崇さん（おのでら行政書士事務所代表／行政書士・社会福祉士／日本ファンドレイジング協会 全国福祉チャプターボードメンバー／日本ファンドレイジング協会 東北チャプター共同代表）
10月30日	「負動産」を「富動産」に	花原浩二さん（マークスライフ株式会社 代表取締役）
11月27日	まるごと託す 包括遺贈	宮川大輝さん（NPO法人 相続・不動産サポートセンター 代表理事）
12月25日	エンディングノートの書き方	齋藤弘道さん（遺贈寄附推進機構株式会社 代表取締役 全国レガシーギフト協会 理事）

なお、「遺贈寄付ライブ」はそのライブ視聴者数、アーカイブ視聴者数の推移から一定の役割を終えたと考え、新しい企画が必要と考え、2024年12月にて一旦終了としている。

協会HPでの遺贈寄付ライブコンテンツの紹介
(https://izoukifu.jp/live_event/)



■人材育成事業

▶ オンライン研修

オンライン研修では新しいコンテンツの追加はなかったものの、年間のべ64人の受講があった。

▶ 遺贈寄付サロンを通して会員間のコミュニケーション継続

遺贈寄付担当者や団体同士のネットワークの構築を促し、テーマに沿った話題・事例提供を行いながら、参加者同士の遺贈寄付のノウハウの情報交換を促進し、寄付者の方々の思いの実現にむけて行動できる受遺団体を増やす目的で、通年で「遺贈寄付サロン」を開催。

2024年度も引き続き、全回、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施。第22回(6月)は大阪をメイン会場にて開催。その後23回、24回、25回は加盟団体、アドバンストレガシーパートナーのオフィスを会場としてご提供いただき開催を行った。どの会も、毎回満足度の高い評価を参加者から得ることが出来、合計のべ204名の参加を得ることができた(対前年比 111%)。

<遺贈寄付サロン開催概要>

日時 / 参加者数	テーマ	登壇者
第22回 6月20日(木) 参加者：31名	遺贈寄付の地産地消の事例に学ぶ	・水取 博隆 氏 (NPO法人キリンこども応援団 代表理事) ・藤本 喜久男 氏 (公益財団法人関西盲導犬協会 事務担当職員 日本ファンドレイジング協会 認定ファンドレイザー) ・可児 卓馬 氏 (公益財団法人京都地域創造基金 専務理事・事務局長 全国レガシーギフト協会 理事)
第23回 9月13日 (金) 会場：日本財団 参加者：69名	遺贈寄付ウィーク特別編	・細貝 朋央氏 (フリーランスファンドレイザー) ・堺 飛鳥 氏(国立大学 東京大学基金) ・三島 理恵 氏 (特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事)
第24回 12月16日 (月) 会場：日本財団 参加者：47名	遺贈寄付のKPIって何？	・景山 誠 氏 (公益財団法人日本野鳥の会 共生推進企画室 室長)
第25回 3月14日(木) 会場：アムネス ティーインターナ ショナル 参加者：57名	資料請求者との関係構築について	・石田 敦 氏 (gooddo株式会社 事業部長) ・榛田 敦行 氏(認定NPO法人ピースウィンズ・ジャバ遺贈寄付ご相談マネージャー) ・金子 由美子 氏(プラン・インターナショナル・ジャパン マーケティング・コミュニケーション部 遺贈寄付担当)

■ 会員事業の強化

・ 加盟団体(正会員)

「いそろ寄付の窓口」を担う加盟団体は、2024年度は増減なく、現在、15都道府県で19団体が窓口業務を担ってくださっている。

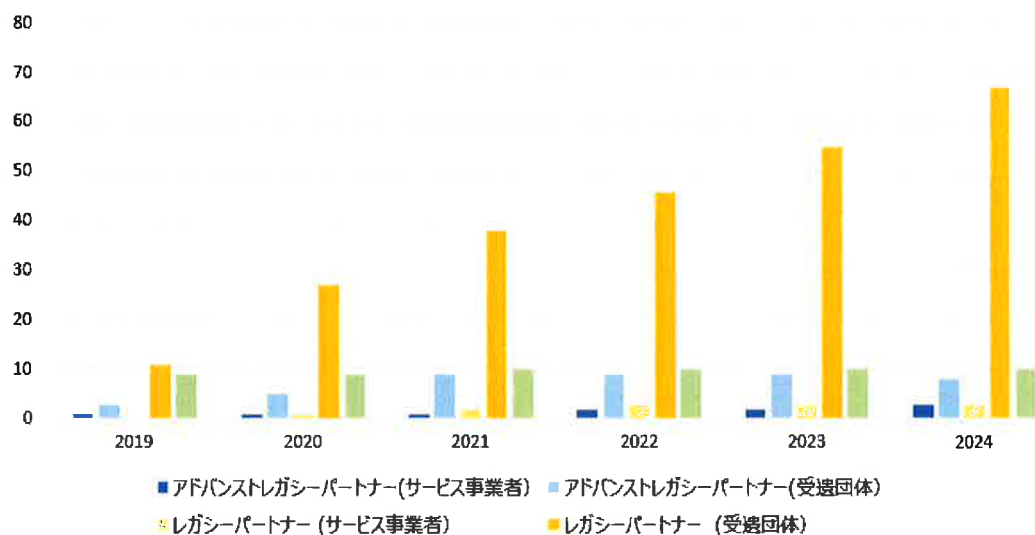
・ レガシーパートナー・レガシーサポーター制度の継続

遺贈寄付がより進む社会を作るために、寄付者の想いの実現や価値づくりに貢献する団体が連帯し、知見を集積し、より発信力のあるコミュニティを作る目的で、レガシーパートナー・サポーター制度の運用を2019年度から開始。5年目となる2024年度は活動でも紹介をしたが、遺贈寄付推進パートナーという区分も新設。レガシーパートナー数はここ数年毎年増加しており、コミュニティとしても、メンバー同士のコミュニケーションが盛んで盛り上げてくれている。

<2025年3月末現在の会員数>

2024年度から新設した「遺贈寄付推進パートナー」はアドバンストレガシーパートナー、レガシーパートナー合せて16企業・団体となる。

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
アドバンストレガシーパートナー (営利団体)	1	1	1	2	2	3
アドバンストレガシーパートナー (非営利団体)	3	5	9	9	9	8
レガシーパートナー (営利団体)	0	1	2	3	3	3
レガシーパートナー (非営利団体)	11	27	38	46	55	67
レガシーサポーター	9	9	10	10	10	10



相談窓口事業

➤ 相談件数

2024年度の「いそう寄付の窓口」に寄せられた相談件数は以下のとおりである。

相談窓口	相談件数 (対前年度)
北海道NPOファンド	10 (+8)
地域創造基金さなぶり	3 (±0)
とちぎボランティアネットワーク・とちぎコミュニティ基金	0
ちばのWA地域づくり基金	3(-1)

南砺幸せ未来基金	0
長野県みらい基金	0(―3)
あいちコミュニティ財団	0
京都地域創造基金	41(―7)
泉北のまちと暮らしを考える財団	回答なし
ひょうごコミュニティ財団	回答なし
佐賀未来創造基金	5(±0)
未来基金ながさき	1(+1)
くまもとSDGs推進財団	2 (±0)
ちくご川コミュニティ財団	3(+2)
みらいファンド沖縄	4(+2)
パブリックリソース財団	5(-5)
日本財団「遺贈寄付サポートセンター」	1,969 (-305)
公益法人協会	4 (- 8)
日本ファンドレイジング協会	0(-2)
全国レガシーギフト協会	9 (+1)
合計	2,059 (-325)

※過去の件数

2017年度	1,914件
2018年度	1,503件
2019年度	1,920件
2020年度	1,951件
2021年度	2,744件
2022年度	2,304件
2023年度	2,384件

■ 事務局運営

- ・ 日本ファンドレイジング協会、岡山NPOセンターでの共同事務局体制を継続。週次での事務会議を実施し、複数拠点でのオペレーションを遂行。
- ・ 昨年から引き続き、事業、管理の実行体制を担当毎に振り分け、業務管理シート、管理会計シートを運用することで実行業務の可視化をはかった。